

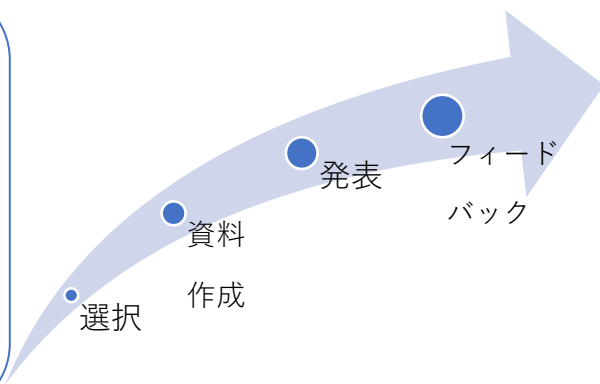


より良いセラピストを目指して！ —入職2年目リハビリ職員の症例報告会—

リハビリテーション科では、教育の一環として、入職3年目までのリハビリテーション科職員を対象に症例報告会を行っています。今回は、入職2年目の職員が行った症例報告会について紹介します。

✓ 症例報告会とは・・・

担当した患者さんの中から1人症例として選択させていただき、リハビリの経過や評価、介入内容、自分の考えをまとめます。それを元に、業務の合間を縫ってレポートと資料を作成し、リハビリ職員の前で発表します。発表後には先輩方からフィードバックを頂き、学びを深めています。職員1人につき年1回の頻度で行っています。



リハビリ職員として入職2年目を迎えると、1年目より様々な経験を積んだことで一人で対応できる場面が増えてきます。それに伴い、日々の業務にも少しずつ自信がついてくる時期になります。しかし、本当の成長はただ「できるようになること」だけではありません。

「なぜこのリハビリを行うのか」、「患者さんにとって今、一番必要なものは何か」を考え、根拠を元に行動する力が求められます。そのため、症例報告会は自身の仕事・業務を振り返り、多くのフィードバックを得ることで学びを深める大切な場となっています。



今回の症例報告会では、実際の症例をもとに発表、意見交換を行いました。入職1年目の症例報告会では、発表前に教育担当者が評価内容、介入方法を確認し、一部アドバイスを行っていましたが、今年は、全て自分が考えて提供したリハビリと、それを元にした発表を行いました。入職2年目は、知識や技術を深めるだけでなく、自ら考え、周囲と協力しながらより良いリハビリを提供できる力を育む大切な時期です。業務の合間を縫っての作業も多かったため、通常時と比較して業務が大変な日もありました。しかし、症例発表会を通して様々な視点から考えを共有することで、新たな気づきや学びが生まれました。そして、一人では気づけなかった課題や改善点を見つけることにつながりました。

これからもリハビリテーション科では、症例報告会などを通じて学びを重ね、患者さん一人ひとりに寄り添った質の高いリハビリの提供に努めてまいります。

■ 医療法人 関越中央病院

入院だけでなく外来リハにも対応しております。
主治医にご相談ください。

▶ 施設基準

- 心大血管疾患リハビリテーション料Ⅰ
- 脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅰ
- 廃用症候群リハビリテーション料Ⅰ
- 運動器リハビリテーション料Ⅰ
- 呼吸器リハビリテーション料Ⅰ
- がん患者リハビリテーション料
- 摂食機能療法



心臓リハ部門 主任
松下知史

病院リハ部門 主任
丸山あすみ

■ 通所リハビリテーション関越中央

1～2時間の短時間通所リハ、6～7時間の長時間
通所リハを行っております。
相談員業務をリハ職が行うことにより、利用者様
に合わせた最適なプランを提案させていただきます。

■ 訪問リハビリテーション関越中央

病院で急性期リハを学んだ職員が対応することで、
心臓・呼吸に問題のある利用者様も安心してご利用
頂けます。



介護リハ部門 主任
狩野和子 田口裕一

空き状況	月	火	水	木	金
短時間型通所リハ 1クール 9：00～10：15	○	△	△	○	△
短時間型通所リハ 2クール 10：30～11：45	△	△	△	△	△
長時間型通所リハ 9：00～15：15	△	○	○	△	△
訪問リハビリ 13：00～17：00	○	○	○	△	○

○：受け入れ可能 △：要相談 × 受入困難

〒370-3513 群馬県高崎市北原町71

TEL：027-373-5115（代）FAX：027-372-2829

アドレス：reha@kan-etsu-hospital.com

ひとことコラム
第 84 回

「脳を元気にする一工夫」

私たちは毎日、歩く、食事をする、身だしなみを整えるなど、色々な動きをしています。これらの動きは、身体を動かすだけではなく、状況を判断したり、次に何をするか考えながら行っています。このように、身体を動かしながら頭も一緒に働かせることは、日々の暮らしの中で自然に行われている大切な働きです。最近の研究では、身体を動かしながら簡単な計算や言葉を考えることで、考える力や注意力、日常生活の動きが維持・改善する可能性があると言われていています。また、気分の改善につながるとされています。日々の生活の中でも、例えば、散歩をしながら今日の出来事を思い出す、テレビを見ながら内容を誰かに説明してみるなど、出来ることから少しずつ取り入れてみてはいかがでしょうか。

参考文献：Guo Z, et al. Ageing Research Reviews. 2025. Comparative effectiveness of different dual-task mode interventions on cognitive function in older adults with mild cognitive impairment or dementia: a systematic review and network meta-analysis.